



# 双塔

カトリック新潟教会

2017年11月  
No. 354

典礼の中で宝探し

主任司祭 ラウル・バラデス

毎月、第2土曜日は典礼についての勉強会があります。月毎のこの勉強会では、わたしにとっても新しい発見があり、典礼のしるし、ことば、動作を深めるきっかけとなります。9月の勉強会ではミサの交わりの儀と閉祭の意味を学びました。

「アーメンの二つの意味」

聖体拝領のとき、奉仕者の「キリストの御からだ」に信者が「アーメン」と答えることになっています。この習慣はいつ、どこから広まったのか定かではありませんが、教父時代（紀元2～8世紀）の説教や洗礼志願者への講話のなかで度々扱われるテーマです。

アーメンとは「確かに」あるいは「そうでありますように」という意味を表すヘブライ語の言葉であると一般的に知られていますが、実はこの一つの単語のなかには確信と願い、完全性と不完全性が含まれているので簡単に翻訳できることばではないのです。

そのような理由から、聖体拝領のときの「アーメン」は二つの意味で解釈されます。このような解釈は聖アンブロジオ（340-397年）と聖アウグスチヌス（354-430年）の文章の中でも確認できます。

1. キリストの聖体そのものに対して信仰を表す・・・「確かに」としての「アーメン」

『主イエズスは、「これは、わたしの体である」と宣言される。天上のことばによって祝福が行なわれる前には、人はそれを別の名で呼び、聖別のあとで肉体と呼ぶ。かれ自身、これが自分の血であると仰せられる。聖別の行なわれる前、ほかのものだと言われ、聖別のあとで血と呼ばれる。そして、あなたは「アーメン」すなわち「それは真実である」と言う。口が語ることを、内なる精神が認めるように。ことばが意味しているものを、心が確信するように。』（聖アンブロジオ『秘跡論』より）

2. キリストのようになることを求める・・・「そうでありますように」としての「アーメン」。

『もし、皆さんがキリストのからだ、またその肢体であるならば、主の食卓の上に置かれてあるのは皆さんを表す秘跡で、皆さんは皆さんを表す秘跡を受けます。皆さんはいただくものに対してアーメンと答え、そう答えながらそれに同意しているわけです。あなたはキリストのからだということばを聞き、アーメンと答えます。ですから、あなたのアーメンが真実であるように、キリストの肢体でありなさい。』（聖アウグスチヌス『説教集 272号』より）

わたしたちが聖体拝領のときに「アーメン」と答えることによって聖体への信仰を表します。同時に、わたしたちはキリストの体の肢体になることを願っています。なぜなら信者は洗礼を通して既にキリストのからだの一部とされるが、まだ完全にそうなったわけではないからです。つまり、信者はそうなるように務めなければならないのです。

『それで、もし体の一つの部分が苦しめば、すべての部分もともに苦しみ、もし一つの部分がほめたたえられれば、すべての部分もともに喜びます。さて、あなた方はキリストの体であり、一人ひとりがその部分なのです。』（1コリント 12:26-27）

聖別されたパンとぶどう酒がキリストのからだだと血になったこと、さらに洗礼によってわたしがキリストのからだの一部となったことに対して「まことに、そのとおりです」（アーメン）と答え、より深くキリストと結ばれ、キリストのからだの一部として行動することに対して「そうでありますように」（アーメン）と答えます。たった一言でキリストの現存の神秘、すなわち信仰者としての性質をわたしたちが宣言しなが

ら、真のキリスト者になることを願っているのです。

今回の勉強会では、典礼のことばに教会の伝承と聖書を照り合わせれば、わたしたちはより深く、積極的に典礼に参加できるのだと改めて実感できました。そして、自分の日々の生活を典礼が表す神秘に合わせるために主の恵みを切に願うように強く励まされました。このように典礼の中に、貴重な宝物を見出すことができたのです。



#### ■ 鎌田神父様霊名のお祝い ---- 10月8日(日) 9:30 ----

この日の9時半ミサは、協力司祭である鎌田耕一郎神父様の司式で進められた。ブドウ畑のたとえの説教のあと、「私の説教が長いのは、皆さんが分かってくれたのか?という不安から、また話を繰り返すということにあります。ですから、もし分からなくても、みなさんがああ、わかった!(うなづくしぐさをされ)と、なってくださいると、説教は短くなってゆくでしょう。」と話され、聖堂には、微笑が広がった。ミサ後、信徒代表から霊的花束を受け取られ、「これを見ればどなたが私のためにお祈りして下さったかどうかわかりますが、お祈りされた方にも、そうでない方にも感謝の祈りを捧げます」と再び会衆の笑いを誘った。

#### ■ 秋の新潟地区信徒大会 ---- 10月8日(日)~9日(月) ----

新潟教会から12名、地区全体では28名が参加した秋の新潟地区信徒大会は、秋晴れの相馬路を旅しながら行われた。二本松教会では信徒会長で「福島やさい畑」理事長さんより福島の現状についてのお話を聞き、同行の山頭神父様(亀田教会)司式で二本松教会の方々とともに主日のミサを捧げた。その後、カリタス南相馬でベーススタッフと合流、南相馬市鹿島区から国道6号線を南下しながら沿岸部を見て回った。

翌日は同じ敷地内にあるカトリック原町教会で朝の祈りとミサ。朝食を済ませて南相馬市博物館などを見学後、カリタス南相馬で開かれている「真こころサロン」の活動に参加。合間を縫って希望者は原町教会併設の「さゆり幼稚園」の園舎にある屋内砂場などを窓越しに見学した。その後カリタス南相馬で手配して下さった弁当をいただき、昼過ぎに新潟への帰路についた。参加者からは「今まで、被災地に関する報道などで分かったつもりになっていたが、実際に足を運んで初めて分かったことがいくつもあった」などの声が上がっていた。

#### ■ 教会学校スタート! ---- 10月22日(日)

10月22日(日)しばらくお休みしていた教会学校が開校した。司教様が「子どもたちに、クリスマスにイエス様のご誕生になるまでの、その前の聖書のお話を伝えてほしい」とおっしゃったことをふまえて、「こどもの聖書」を頼りに、初日は「天地創造」を勉強した。この日は3人の小学生が参加し、自己紹介・名札作り・聖書の勉強をした。終了後は「お告げの鐘」が鳴るまで高校生・青年リーダーと遊びの時間。なお、教会学校は今後、月に1回ずつ行う予定。どうぞお近くの小学生にお声掛けを。また、中・高校生はリーダーとして参加可。リーダーは「教会学校のある日は、こどもたちは聖堂前列でミサに与かりましょう。青年リーダーが待っていますよ!」と呼びかけている。